露國改革会社乱発新設

外務省

明治九年六月

3-2058

0245

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大臣
次官
政務
通商
人事
會計
取調

No.1985

官報掲載
新聞掲載
通商彙纂

浦塩發
本省着 明治三十九年六月廿五日 午前七・五〇
同 午後一・二〇

井上事務官

大臣

本日當ヲ報告シ置キタル露船「モンゴリア」號ハ愈々來ル二十八日後午四時當港發三十日午前六時敦賀著ノコトニ決セリ該船ハ今後毎木曜日當港發定期航海ヲ為ス筈ナリ又長崎上海線ニ使用セラルヽ露船「インディヤ」號ハ既ニ昨廿四日長崎ニ向テ當港ヲ出發セリ右露船會社ハルーレ(?)會社ニアラズ露國東亜汽船會社ナリ汽船發着表及其ヲ他詳細ノコトハ郵便ニ讓ル、

3-2058
0246
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

明治三九年六月十一日達

通商局長　代　[illegible]

主任

明治三九年六月十一日起草　清水

同　一月一日發遣

文書課長

明治三九年六月十七日接受

49

清書　校正

送第

日本郵船株式會社

大阪商船株式會社

大東商船會社

右南洋航路設ノ件

外務省

在南洋出張帝國領事ヨリ本月八日發電ヲ以テ報シタル所ニヨレハ今ヤ愈々蘭領東印度政府ハ蘭印汽船會社ニシテ蘭領和蘭亞洲通商[illegible]ヲ以テ蘭領東印度ノ連絡ヲ保シタルカ[illegible]ヲ[illegible]ヲ本月二十一日ヲ以テ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

外務省

3-2058

0248

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

運輸綴 三九 號

拜啓

去十一日付送第一四五號ヲ以テ露國滊船會社定期航海開始ノ件ニ付御通知ニ預リ難有奉拝謝候先ハ右御禮申述度如此ニ御座候

敬具

明治三十九年十月廿日

大阪商船株式會社
社長 中橋徳五郎

外務省通商局長石井菊次郎殿

大阪商船株式會社

3-2058

0249

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第七五號

拝呈仕候

去九十一日付送第一四五號ヲ以テ露國漁船會社「ルシー」定期航海開始ノ件ニ就キ御通報ニ預リ奉拝謝候右不取敢御禮迄申述度如斯御座候

敬具

明治三十九年四月

大家商船合資會社

船員商業組合

大家七平

外務省通商局長石井菊次郎殿

3-2058

0250

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

文書課長

明治三九年六月二十六日起草
月　日發遣

通商局長　代　閣

主任

急

送第一七〇號

大阪商船株式會社
大東商船株式會社　合名

在清汽船航路ニ付

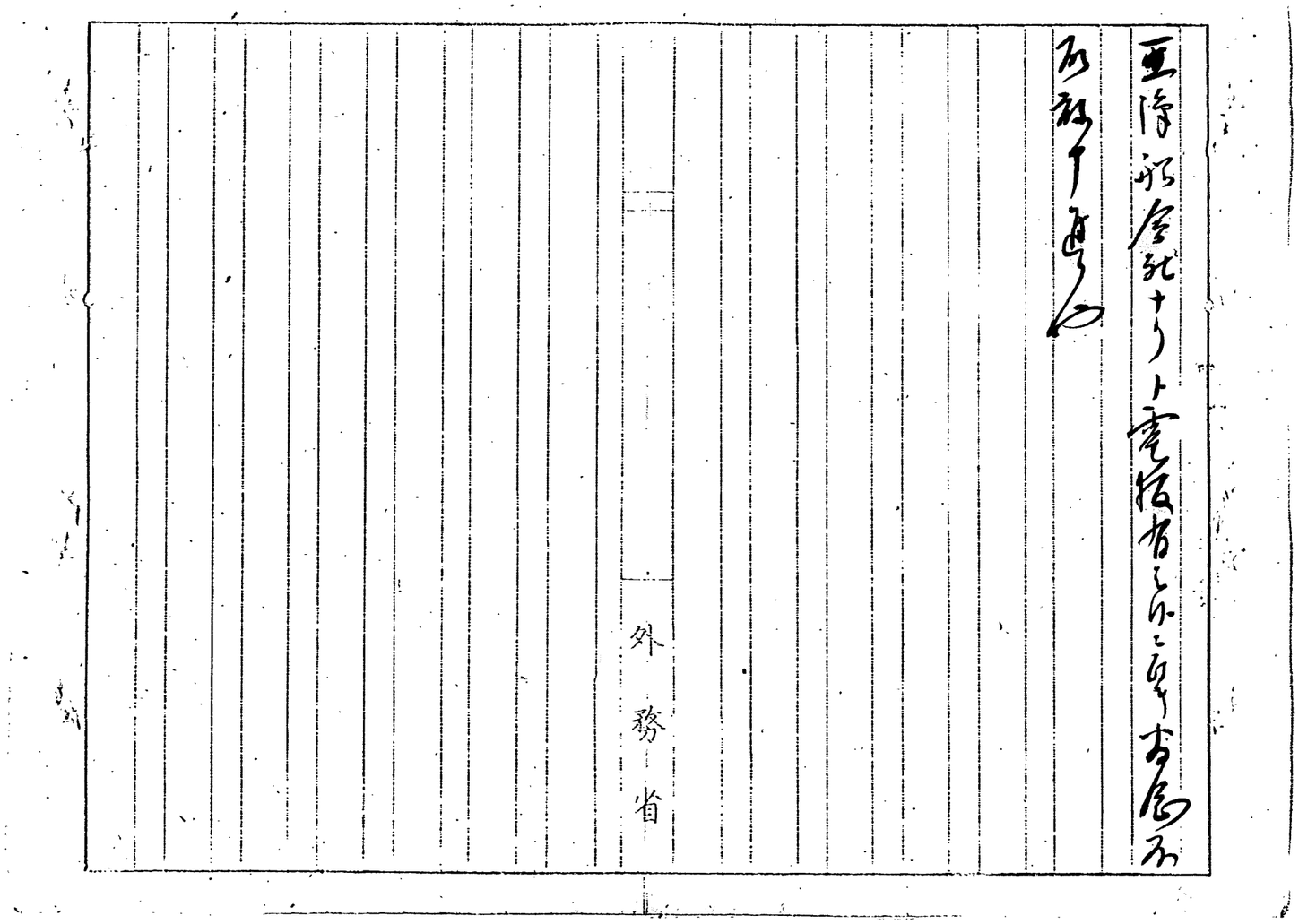
清国海関ニ於テ本年春ヨリ
以ヲ書ヲ報告シ置キタル流行「モンゴリア」ヲ
ハ金ニ来タル年八月ハ時期尚ホ三ヶ月
年末七月ニ於テ其ノコトニ決シタル旨
日本郵便汽船株式會社ヨリ又長
崎上海線ニ使用セラルヘキ流行「イレデイヤ」ヲ
ニ月二十四日長崎ニ入港セ
清国海関ハ同様ニ「海関」ヲ

外務省

3-2058

0251

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



3-2058

0252

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

74
112

運甲第四二九號

受第一二九七號

拜啓

六月廿六日付送第一七〇号ヲ以テ露國東亜汽船會社定期航海開始ノ義ニ付御下報ニ預リ難有拝誦仕候先ハ右不取敢御禮迄申述度如斯ニ御座候敬具

明治三十九年七月廿九日

大阪商船株式會社
社長　中橋徳五郎

大阪商船合資會社
業務社員　大家七平

大阪商船株式會社

外務省通商局長石井菊次郎殿

3-2058
0253
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

明治九年六月二十七日書翰

通商局長　代　関　主任

明治九年六月二十七日起草
同　六月廿七日發遣

文書課

明治九年六月二十七日接受

校正

第壱号

内務省

浦塩在邦露船数若干ニ付伺

浦塩斯德ニ於ル邦船数若干ニ付伺

浦塩斯德以ノ出来ル事務及ニ付ハ

別ノ電報ヲ以テ通知ス

記

露船ニ於テ輸出ス可キ米穀ハ

現今五千石ニ付六百石ノ積ニ

後船ハ今後毎月五隻ノ定期航海

ヲ為ス筈ナリ又長崎ニ於テ

3-2058

0254

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一流私ノインデイヤンハ已ニ作二十四年ノ長ク
ニ向テ当時ノ書セリ右流私倉社ハ
ヒヒ(マヽ)ニ倉社ヲアラズ露西亞帝國
社ナリ

外務省

3-2058

0255

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

官報掲載

通商彙纂

郵船商船

外務商船

三菱ト和ヘ

通知スル

西回ノ後

新聞紙掲載

明治三十九年六月廿一日接受　　通商局

公第四五号

露國汽船會社ノ當港ニ開ク定期航海開始

今回新設ノ露國汽船會社ノ當港長崎上海間定期航海敦賀間及ヒ當港長崎上海間ニ関シ去ル六日不取敢電報致置キ爾後更ニ確ナル筋ヨリ聞知スル所ニヨレハ同會社ハ汽船モンゴリヤ（登簿噸数一千六百二十七噸）ヲ使用シ當港敦賀間ノ定期航海ヲ開始シ毎週一回當地ニ到着スヘキ西伯利亜鉄道急行列車ト連絡ヲ保持シ當港長崎上海間ノ航路ニハ汽船アルコーニヤ（登簿噸数二千六百四十四噸）及ヒクロートニヤ（登簿噸数二千九百四十八噸）ヲ使用シ右二航路及ヒ新ニ開始セシ當港ヨリ沿海港ニ至ル航路ニ對シ政府ヨリ年額七十五萬留ノ補助金ヲ受クル趣ニテ尚ホ當港敦賀間ノ航海ハ本月廿日ヨリ開始セラルヘキ旨電報致置キタル右航路表ニ就テハ目下其筋ヘ認可申請中ニ由テ開始期日ハ尚ホ未定ニ属ス

右及報告ス敬具

明治三十九年六月十四日

在浦潮港日本貿易事務官　川上俊彦

3-2058

0256

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

外務大臣子爵林董殿

追テ前記各航路表巻末表次第取調
メ及送付ス太田清吉

在浦潮港日本貿易事務館

3-2058

0257

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1246

機密第二十九号　明治三十九年六月廿一日　在浦潮港日本領事館　書記生　野村

機密第一二号

日本海航路ノ改正ニ関スル件

浦潮敦賀間ニ直接ノ定期航海ヲ開始シ敦賀ト京濱及阪神ノ間ニ急行列車ヲ馳走セシメ以テ歐亜ヲ貫通スル西伯利鐵道ト大洋洋ヲ来往スル内外郵船ノ間ニ連絡ヲ保タシムルノ必要並日本海航路ノ改正ニ関シ去ル明治三十五年中屢〻愚見開陳ニ及置タル處去ル日公第四五号ヲ以テ出張告ニ及ビタル通ニ路國「ルーン」會社ハ愈〻南港敦賀間ニ定期航海ヲ開始スルニ決シ果シテ世評ノ如ク遠航「モンゴリヤ」號ヲ以テ此航路ニ使用スルニ至ラハ我航業者ハ至大ノ打撃ヲ受ケンコトヲ對抗スル決シテ容易ノ業ニ有ラス関數年該航ハ我滿洲丸ト同一模型ノ船種ニ屬シ其登簿噸數千六百二十七噸速力十四海里以上ヲ有スルヲ以テ浦潮敦賀間一四百八十海里ノ航程ハ僅ニ一晝夜半ニ過キサルニ至ルヘク既ニ大家高航會社カ此航路ニ使用シツヽアル交通丸及宮島丸ノ如キハ到底之ト匹敵スヘカラサルハ勿論ニ義ニ有ラスシテ抑モ日本海ニ於ケル世界的公道ノ航海權ヲ奉テ露國郵船ノ掌裏ニ歸セシムルハ我邦ニ取リ今日迄ノ行掛上頗ル遺憾ニ堪ヘサル次第ニ付此際我航業

者ヲシテ奮起一番セシメ度ト〳〵其起業ハ
初年ニ於テ收支相償ハサルコトアリトスルモ我
政府ハ財政ノ許ス限リ之ニ相當ナル保護
ヲ與ヘ前記航路ニ於テ露國郵船ト雖雄
ヲ決スルノ覚悟ヲ有セレムルノ必要ノ存ス
トスル

仍テ現時ノ情勢ニ鑑ミ往年ノ日本海命
令航路ニ必要ナル改正ヲ加ヘ且之ト同時ニ
浦潮敦賀間ニ特別ノ定期航海ヲ開始スル
ハ焦眉ニ急務ト存ス之ニ付左ニ愚見ヲ
開陳致ス

第一　九春古丹小樽間ノ航路ヲ廢スルコト
本命令航路ハ南部樺太カ我版図ニ歸
レタル結果全然内國航路ト變シ且右
兩港間ニハ現ニ日本郵船會社カ其航
船ヲ以テ定期航通ヲ支持シツヽアルカ故ニ
之ヲ廢スルモ何等ノ差支アルコトナシ

在浦潮港日本貿易事務館

第二　函館、新潟、東伏木、七尾、宮津
境、濱田ノ寄航ヲ廢スルコト
右諸港ハ當方面ニ向テ輸出スヘキ特殊ノ
貨物ナク往來ノ經驗ニ徴スレハ之カ寄航
ヲ廢スルモ日露貿易ノ消長ニ何等影
響スルトコロナシ況ンヤ前記諸港ハ内國
航路ヲ支持スル船舶ニ依リ小樽敦賀
及門司ト連絡ヲ通スルコト容易ナルニ於テ
カヤ

3-2058
0259
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三、韓國諸港ヘノ寄航ヲ廃スルコト

本航路ニハ從來日本郵船會社カ定期航通ヲ支持シ居ルノミナラス現ニ大坂商船會社モ亦汽船計畫ヲ以テ神戸門司釜山元山城津浦潮間ノ航通ヲ保チツヽアリ且近々ノ内元航路ニ向テ更ニ一隻ヲ加ヘ通計三隻ヲ以テ定期航海通ヲ支持セントスルノ計畫アルニ由リ特ニ命令航路トシテ前記諸港ヘ寄航セシムルノ必要ヲ見サルナリ

前述ノ如ク從前ノ航路ヲ廃シ現在使用ノ汽船引續ヲ以テ日露通商上最モ重要ナル航路即チ

第一、浦潮小樽間

第二、浦潮門司神戸間

ノ定期航海ヲ更ニ一層頻繁ニ支持セシメ而シテ

第三、浦潮敦賀間

ニ特殊ノ新定期航海ヲ開始シ露國郵船ヨリモ一層優勝ナルカ否ラサレハ少クトモ之ト對峙シ得ル源色ナキ客船（速力十三四海里船客上等二十人以上中等三十人以上）ヲ使用スルノ必要アリトス

日露通商ノ現状ニ徴スレハ船客及貨物ト共ニ戦争前ニ倍シ浦潮小樽間及浦潮門司神戸間ノ航路ハ頗ル有利ナリ少クトモ當方面ニ於テ内地貿易ノ存續

3-2058

0260

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

スル間ハ之ニ普通ノ遠洋航海奬励金ヲ與フレハ決シテ損失ヲ招クノ虞ナカルヘキニ依リ特別保護金十四萬円ハ專ラ浦潮敦賀間ノ航海費ニ充テシムルコトヲ得ヘクンハ一擧両得ニ策トシテ存ス

右申進ス敬具

明治三十九年六月十五日

在浦潮

貿易事務官川上俊彦

外務大臣子爵林董殿

在浦潮港日本貿易事務館

3-2058

0261

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

公第七一號

露國東亜汽船會社東洋諸港

第一三六三號

第四十五年[illegible]

知し[illegible]所ニヨレハ同汽船會社ハ專ラ東亜ニ[illegible]加及ハ海州諸港間ノ定期航海ニ從事シ當港敦賀間及當港長崎上海間ノ定期航海ハ全ク別個ノ露路

露國東亜汽船會社(Русское Восточно-Азиатское Пароходное Общество)ノ經營ニ係ルモノニシテ同社ハ之カ為メ露國政府ヨリ年額七十萬留ノ保護金ヲ受クル

露國東亜汽船會社ノ今回開始セル航路ハ別紙航路表ノ通リ三線ヲ成リテ一線ハ浦潮敦賀間ニ二線ハ浦潮長崎上海間ニ三線ハ浦潮元山長崎仁川上海ニ之ニ大連間ヲ定期航行シテ一ニ二線ハ共ニ急航(エキスプレス)ニシテ来ル七月ヨリ毎周水土両日當地ニ到着スヘキ欧亜直通列車ト連絡ヲ保チ第一線ハ「モンゴリヤ」号ヲ使用シ往航ハ毎木曜日當港ヲ出帆シ土曜日敦賀ニ着復航ハ日曜日同地ヲ出帆シ火曜日當港ニ着スル(途中ニシテ一等船客賃(食料付)三十七留三等船客賃(食料付)九留ナリ)「モンゴリヤ」号ハ明廿八日當港出帆新航路ヲ就テ更ニ同船ノ航行時間ハ往復トモ均シク三十八時間ナルニ付大家商船會社汽船ノ同線航行時間四十八時間ヲ要スルニ比シ早キ時間ハ

露國軍亜汽船會社東洋諸港間定期航海図路表

（三十九年一月二十七日附　在浦汐　帝國領事館報告）

（貿易ノ部）

ルーシヤ汽船會社定期航海図路ハ第四年目ニ係ル本年報告ノ如ク其後更ニ確知シタル所ニヨレハ同汽船會社ハ專ラ乘客加及ヒ海州諸港間ノ定期航海ニ從事シ當港敦賀間及當港長崎上海間ノ定期航海ニ全ク別個ノ露路ヲ開東亜汽船會社（Pyccoe Baxmorko-Asiatcke Nakoxogcmbo）ノ經營ニ係ルモノニシテ同社ニ之カ為メ露國政府ヨリ年額七十萬留ノ保護金ヲ受クル

在浦潮港日本貿易事務館

今會社ノ今回開始セル航路ハ別紙航路表ノ通リ三線ヨリ成リ第一線ハ浦潮敦賀間第二線ハ浦潮長崎上海間第三線ハ浦潮元山長崎仁川上海ノ大連間ヲ定期航行シ第一第二線ハ共ニ毎航ニシテ来ル七月ヨリ毎月水土両日當地ニ到着スヘキ欧亜直通列車ト連絡ヲ保ツ第一線ニハ「モンゴリヤ」号ヲ使用シ往航ニハ毎木曜日當港ヲ出帆シ土曜日敦賀ニ着シ復航ニハ日曜日同地ヲ出帆シ火曜日當港ニ着ス

傭船ニシテ一等船客賃（食料付）三十七留三等船客賃（食料ナシ）九留ナリ「モンゴリヤ」号ハ明廿八日當港出帆新航路ヲ就航スヘシ同船ノ航行時間ハ往復トモ均シク三十八時間ナルニ付大家商船會社汽船ノ同線航行時間四十八時間ヲ要スルニ比シ早ク十時間ヨリ

有之奏

第二線ニハ「インデアン」号（噸数約九千噸）及「クロー」号ヲ使用シ往航ニ毎日曜日當港出帆長崎ヲ経テ木曜日上海ニ着復航ニハ土曜日同港出帆長崎釜山ヲ経翌週木曜日當港ニ着ノ豫定ニシテ當港長崎間ノ一等船客賃五拾貳番ナリ「インデアン」号ハ既ニ去ル二十四日當港出帆新航路ニ就キ

第三線ハ我年前東清鐵道會社汽船部ノ清韓航路ヲ踏襲シ之ニ汽船「ロンダムーン」号「ヤーソン」号外一隻ヲ使用シ主トシテ清韓西國ノ沿岸諸港ヲ巡航シ往復トモ長崎ニ寄航スル航海ノ航行日数三十四日間ニシテ一ヶ年ノ航海回数ニ於六回ナリ「ロンダムーン」号

在浦潮港日本貿易事務館

ハ本日當港出帆新航路ニ就ノ事有之度

第一、第二両線ニ使用スル汽船ハ何レモ近年ノ製造ニ係リ快速カヲ有シ船内ノ設備完整西洋大汽船ナルヲ以テ同航路ノ競争線タル大家高船會社ノ當港敦賀線及節船會社ノ當港那覇線ハ何レモ多大ノ影響ヲ受ケ少クトモ之ニ匹敵スルノ新式快速ノ良汽船ヲ使用シテ之ニ當ラントセバ日ナラスシテ貨物船客トモ全ク之ニ奪ハレンニ至ルヘシ

別紙航路表諸文相添此段及報告候也

明治九年二月廿七日

在浦潮貿易事務官川上俊三

外務大臣子爵 林 董殿

3-2058

0264

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

露國東亞汽船會社千九百六七年航路表

第一線　浦潮、敦賀間（急航）

浦潮　發　木曜日午后四時　航行三十八時間
敦賀　着　土曜日午前六時　碇泊三十三時間
敦賀　發　土曜日午后三時　航行三十八時間
浦潮　着　大曜日午前五時　碇泊五十九時間

第二線　浦潮、長崎、上海間（急航）

浦潮　發　日曜日午前四時　航行五日一時間
長崎　着　大曜日午前七時　碇泊十時間
長崎　發　同日午后五時　航行三十七時間
上海　着　木曜日午后四時　碇泊三十八時間
上海　發　土曜日午后四時　航行三十七時間
長崎　着　月曜日午前五時　碇泊十二時間
長崎　發　同日午后五時　航行十三時間
釜山　着　大曜日午前六時　碇泊七時間
釜山　發　同日午后一時　航行四十一時間

在浦潮港日本貿易事務館

浦潮　着　木曜日午前六時　碇泊七十時間

第三線　浦潮、元山、釜山、長崎、仁川、上海、芝罘、大連間

浦潮　發　二月　日午后六時　航行三十八時間
元山　着　〃　十六日午前三時　碇泊十六時間
元山　發　〃　十六日午后七時　航行三十二時間
釜山　着　〃　十八日午前三時　碇泊十一時間
釜山　發　〃　十八日午后二時　航行十七時間
長崎　着　〃　十九日午前七時　碇泊九時間
長崎　發　〃　十九日午前六時　航行九十時間
仁川　着　〃　二十日午前八時　碇泊九十二時間
仁川　發　〃　二十三日午前六時　航行五十二時間
上海　着　〃　二十五日午前十時　碇泊五十四時間
上海　發　〃　二十七日午后四時　航行五十三時間
芝罘　着　〃　二十九日午后九時　碇泊二十三時間
芝罘　發　〃　二十九日午后八時　航行十時間
大連　着　七月一日午后七時　碇泊十三時間
大連　發　七月一日午后六時　航行十時間
芝罘　着　〃　二日午前四時　碇泊八時間
芝罘　發　〃　二日午前十二時　航行五十三時間

3-2058
0265
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| | | |

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0256

3-2058

3

十二月十九日	二	十一月十五日	十二月十九日
十二月二日	一	〃	一月二日
十二月十三日	二	十二月十三日	〃 十二月十三日
十二月三十日	二	〃	〃 三十日
十二月十三日	一	十一月一日	三月十三日
十二月十七日	二	〃	〃 十七日
十二月十八日	二	三月七日	三月十三日
十二月十九日	一	三月八日	三月十七日
十二月十九日	二	三月七日	三月十八日
十二月廿一日	二	〃 廿一日	〃 廿四日
十二月廿二日	一	三月廿四日	五月小二日
十二月廿三日	二	〃 十八日	五月廿三日
十二月廿四日	一	三月廿四日	〃 十一日
十二月廿五日	二	〃 廿五日	〃 廿七日
十二月廿六日	二	〃 廿六日	〃 廿八日
十二月廿七日	二	〃 廿七日	〃 廿九日
十二月廿八日	二	〃 廿八日	〃 三十日
十二月廿九日	一	〃 廿九日	六月小一日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 五十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 五十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 五十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 五十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 五十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 五十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 五十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 五十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 五十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 五十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 六十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 六十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 六十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 六十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 六十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 六十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 六十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 六十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 六十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 六十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 七十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 七十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 七十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 七十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 七十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 七十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 七十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 七十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 七十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 七十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 八十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 八十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 八十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 八十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 八十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 八十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 八十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 八十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 八十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 八十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 九十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 九十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 九十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 九十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 九十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 九十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 九十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 九十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 九十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 九十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百二十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百二十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百二十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百二十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百二十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百二十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百二十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百二十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百二十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百二十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百三十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百三十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百三十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百三十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百三十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百三十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百三十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百三十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百三十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百三十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百四十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百四十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百四十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百四十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百四十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百四十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百四十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百四十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百四十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百四十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百五十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百五十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百五十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百五十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百五十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百五十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百五十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百五十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百五十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百五十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百六十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百六十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百六十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百六十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百六十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百六十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百六十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百六十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百六十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百六十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百七十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百七十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百七十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百七十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百七十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百七十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百七十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百七十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百七十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百七十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百八十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百八十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百八十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百八十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百八十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百八十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百八十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百八十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百八十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百八十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百九十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百九十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百九十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百九十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百九十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百九十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百九十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百九十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 百九十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 百九十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百二十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百二十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百二十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百二十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百二十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百二十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百二十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百二十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百二十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百二十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百三十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百三十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百三十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百三十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百三十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百三十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百三十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百三十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百三十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百三十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百四十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百四十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百四十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百四十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百四十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百四十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百四十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百四十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百四十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百四十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百五十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百五十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百五十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百五十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百五十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百五十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百五十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百五十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百五十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百五十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百六十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百六十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百六十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百六十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百六十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百六十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百六十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百六十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百六十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百六十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百七十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百七十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百七十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百七十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百七十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百七十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百七十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百七十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百七十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百七十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百八十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百八十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百八十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百八十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百八十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百八十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百八十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百八十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百八十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百八十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百九十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百九十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百九十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百九十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百九十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百九十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百九十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百九十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 二百九十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 二百九十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百二十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百二十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百二十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百二十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百二十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百二十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百二十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百二十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百二十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百二十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百三十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百三十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百三十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百三十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百三十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百三十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百三十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百三十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百三十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百三十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百四十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百四十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百四十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百四十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百四十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百四十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百四十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百四十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百四十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百四十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百五十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百五十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百五十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百五十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百五十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百五十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百五十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百五十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百五十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百五十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百六十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百六十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百六十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百六十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百六十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百六十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百六十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百六十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百六十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百六十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百七十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百七十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百七十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百七十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百七十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百七十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百七十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百七十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百七十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百七十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百八十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百八十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百八十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百八十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百八十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百八十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百八十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百八十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百八十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百八十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百九十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百九十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百九十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百九十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百九十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百九十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百九十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百九十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 三百九十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 三百九十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四百日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四百一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四百二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四百三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四百四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四百五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四百六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四百七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四百八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四百九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四百十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四百十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四百十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四百十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四百十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四百十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四百十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四百十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四百十八日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四百十九日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四百二十日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四百二十一日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四百二十二日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四百二十三日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四百二十四日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四百二十五日
十二月廿九日	二	〃 廿九日	〃 四百二十六日
十二月三十日	二	〃 三十日	〃 四百二十七日
十二月廿九日	二	〃 廿九日

明治三九年七月二日起草
同　七月三日發遣

通商局長　代　閲

主任

急

明治卅九年七月三日發遣

送第一四七號

石井通商局長

内田管船局長

近藤郵船會社長（以上公用）

送第一四八號

大阪商船會社長

東洋汽船會社長）連名

外務省

露國東亜汽船會社東洋諸港間定期航海開始ノ件

露國東亜汽船會社東洋諸港間定期航海開始ノ件ニ關シ今般在浦潮斯徳川上貿易事務官ヨリ別紙寫ノ通リ報告有之候ニ付御参考迄茲ニ及御送付候也

（明治卅九年六月廿三日付公信寫（及附屬書）共ニ添付ノ事）

3-2058
0268
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

遠軍蘭ヨリ四月朔

拝啓

去二日付送第一八一号ヲ以テ露國東亞汽船會社定期航海開始ノ件ニ関シ御詳報ニ預リ奉拝謝候不取敢右御禮申述度如此御座候敬具

明治三十九年　　小林商店

大阪商船株式會社

中橋徳五郎

大阪商船株式會社

大家七平

大阪商船株式會社

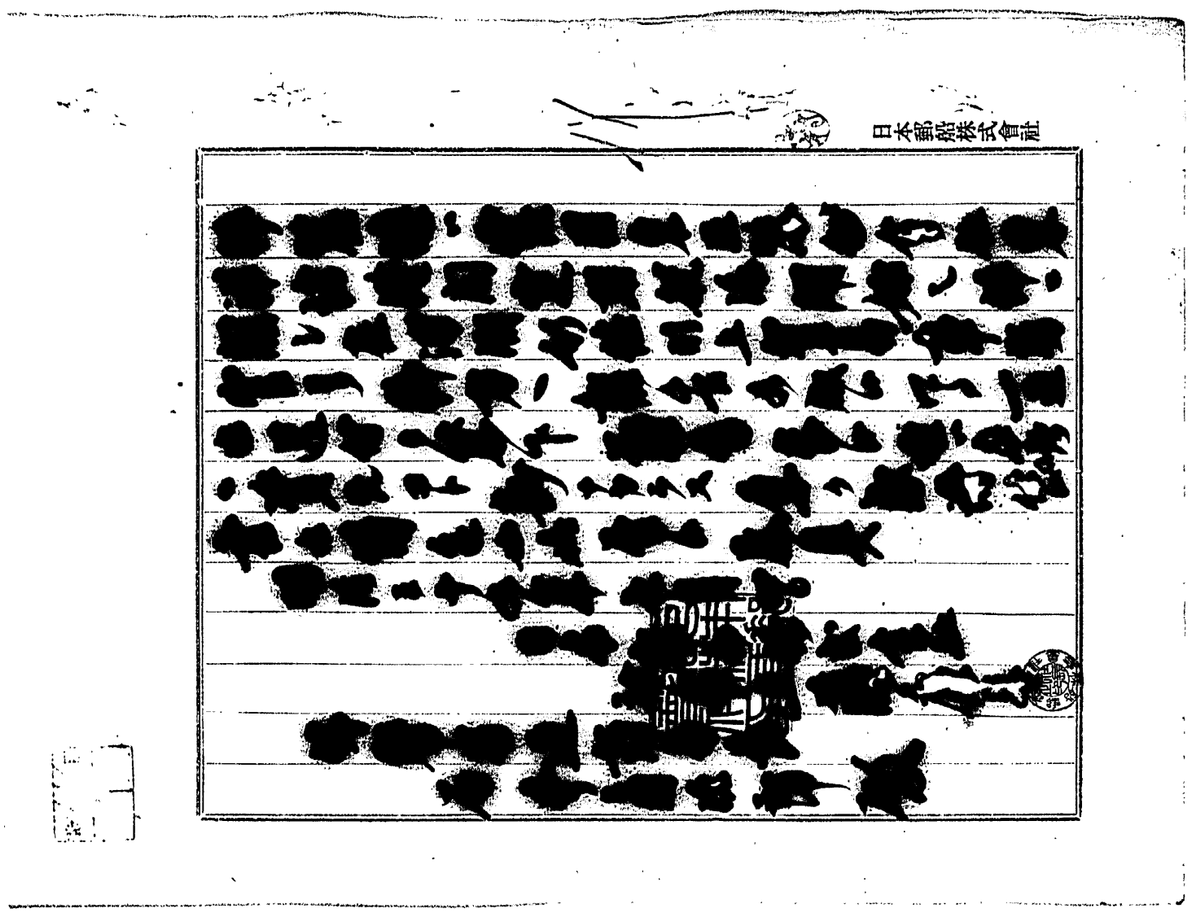
社員

外務省通商局長石井菊次郎殿

3-2058

0269

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0271
3-2058

文書類

機密

明治三十九年七月十四日発送

明治三十九年七月十四日起草

主任

内田反船会社

日本海命令航路改正ニ関スル

意見ヲ伺ヒ

露国東亜汽船会社ヨリ東洋諸港間

定期航路開設ニ付ヒ

外務省

送第一四七号ヲ以テ浦潮港ヨリ領

事務官ノ報告ニ依リ反船会社ヨリ日本海命令航路

改正ニ関シ別紙ノ通意見具申

有ラバ其ノ向ヲ

指令致度此段申進ス

明治三十九年七月十一日

外務大臣男爵小村寿太郎

別紙

明治三十九年七月十一日接受

3-2058

0271

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大臣
次官
参事官
亜細亜局長
通商局長

機密第19号
機密受第八九号

明治四十年一月四日接受

浦潮敷賀間定期直通航路開始ニ関シ
再稟申上ル件

今夏露国東清鉄道会社ヨリ開始ニ係ル請航路
露国浦潮敷賀間定期直通航路ヲ開始
シ本邦ニ於テモ同様ノ定期直通航路ヲ開始
スルノ急務ニ関シ本年六月十五日付機密第
一二号ヲ以テ愚見ヲ具申シタル次第ニ
付ス、同航路開始ニ付テモ更ニ
左ニ愚見開陳仕リ候
露国ハ鋭意路線改良ニ従事
中ニシテ目下通行列車一週二回ノ往復アリシ
ヲ近日列車一週三回ノ往復ニ改善シ
更ニ毎月一回第五寝台会社
ノ寝台付列車ヲ増送スルコトトシ従来南浦敷賀
間ハ昼夜ヲ要シ
ノ所ニ
昼夜ヲ以テ
ノ所ニ
在浦潮港日本貿易事務館

敷賀ニ
ヨリ
ノ
ヲ
ノ
ヲ
ノ
ヲ

ヤ僅ニ十日百ニテ足レルコトナリ高價ナル高
品及郵便物亦其利便ヲ享クルコトナリ
既ニ帝国政府ニ於テハ郵政ト歸船ト
結果該鉄道ニヨリテ和邦政府ハ郵便
物ヲ運送スルコトナリ加之戦後日露
両国ノ通商関係益々密接トナリ商業
其他各種ノ用向ヲ以テ日露人ノ互ニ往
復スルコト極テ頻繁トナリ両国物出入額ハ
頗ニ倍蓰シ今後益々盛達セ
ントスルノ好況ヲ呈セリ又当地郵便局長ノ
内話ニヨレハ近来露政府ト在和邦露国
公使トノ往復文書ノ往復ハ自国郵船ノ
ニ頼リ当地郵便局長ト在長崎露国

在浦潮港日本領事務館

領事トノ間ニ授受ヲナシ来リタルカ露国ガ
敷頃ニ領事館ヲ設置スルニ至ラハ自国郵船ヲ
利用シ浦潮敷頃ニ於テ前記文書ヲ授受スル
コトヽナルヘキ趨ニ赴ヘハ林政府モ亦早晩西
比利鉄道ヲ利用シ歐陸ニ特使ヲ往復セ
レムルノ必要ヲ認メラルヽハ而論政府列藩ト
各国ト将来極東諸国ニ在ル大使館公使
彼トノ文書ノ往復モ亦該鉄道ヲ利用
シ特使ヲ往復セシムル至ルノ時機ナレトモ
然ラハ世界的公道タル政府専有鉄道
カ将来益々重要ナル地位ヲ占ムルニ至ルヤ
言ヲ待チテ知ルヘキミアラサルナリ然ルニ貴国
鉄道ノ最路長タル浦潮港ト和邦トヲ聯路

3-2058
0273
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

スル日地数賀宮ノ出遊航路ハ孝宮上
露ヲ亦亜洲航会社ノ独占スルトコロトナリ
同会社ガ速力頓数共ニ優秀ナル新式汽
船モンゴリヤ号ヲ使用シ毎週一回ニ定期航
海ヲ支持シ冬期中尚ホ航海ヲ継続
スルニ反シ之ニ対スル本邦洲航ハ日本海命
令航路タル大家商船会社ノ宮島丸交通
丸ノ二度ナルガ各〻一年僅ニ八回ノ定期航海
ヲナスニ止マリ冬期三ヶ月間ハ全ク休航シ而カモ
其速力頓数ニ至リテハモンゴリヤ号ト同日ノ談
ニアラス近頃阪鶴鉄道会社洲航船第三
号丸ヲ以テ一ヶ月三回舞鶴浦潮間ノ定
期航海ヲ開始シタルモ旧式船ナルガ上ニ速力
亦遅緩ニシテ到底モンゴリヤ号ニ対峙スルコト
能ハサルナリ實ニ欧亜貫通鉄道ト本邦
トヲ聯絡スル日本海ノ航海権ヲ一ニ露国ニ
帰ノ掌裡ニ帰セシムルハ帝国ニ極東ニ覇権
ヲ握レル帝国ノ体面上甚タ面白カラサル事
実ナルノミナラス百万余ノ商人ノ洲航ヲ有スル我航
業者ノ恥辱此上ナク且ツ我対露貿易
上ニ変クル所ノ影響亦著大ナルモノアリ帝
国ニ於リ如何ニモ遺憾千萬ナル次第ト云
ハサルヲ得ス帝国政府ハ此際可成速ニ我
航業者ニ対シ奮ノ保護ヲ與ヘ露国新式快速ナルカ若クハ之ト同定期
ナル洲航船ヲ浦潮数賀宮ノ出遊航路

在浦潮港日本領事館

ヲ開始セシメンカトモ航負ノ技術及貨物ノ
待遇上要路ニ航路ト競争ヲ試ミ之ニ
大打撃ヲ加ヘ日本海ノ航海権ヲ我航業
者ノ手裏ニ確得セシムルコト刻下ノ急務
ト思考致ス
右申進ス敬具
明治三十九年十一月廿四日
在浦潮
貿易事務官川上俊彦
外務大臣子爵林董殿

在浦潮港日本貿易事務館

3-2058
0275
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

通商電信

公第一五號

敦賀浦潮間航路ニ関スル件

露國東亜汽船會社ノ敦賀浦潮間航路増船ノ件、仝航路延長ノ件並ニ下村房次郎ノ提案ニ係ル日本ノ一汽船會社ト仝社ト協同營業ノ件ハ本ニ関シ大家高船汽船會社支配人河野文一ヲ取調方依頼越シ候ニ付東亜汽船會社支配人ニ面晤ヲ遂ケ取糺ス處増船ノ件ニ関シテハ仝會社ニハ目下其ノ計畫ナク且ツ仝社ト露國政府トノ契約期限ハ滅磨千九百七拾年六月三十日ナルヲ以テ少クトモ在満期迄ハ從前ノ通リ何等變更アルヲナシ尤モ「モンゴリヤ」號使用ノ義ハ隨分不経濟ニ付昨今長崎ニ於テ修繕中ナルハ「ケッケ」號ヲシテ之ニ代ヘ武之計リ難シトノ事ニ候仝社ハ曩ニ「モンゴリヤ」号ノ他ニ使用シ精ヤハリ形ノ汽船二隻ヲ以テ敦賀浦朝ノ定期航路ヲ支持セレメントスルノ考ヘヲ有セシカ為ノ右増船ノ風説ハ必竟此處ニ胚胎シタモノナラン云々然ルニ仮令延長ノ件ハ如何トモナシ仝社ハ敦賀浦潮線ノ為ノ此海道若ハ九州ノ一港ニ當ル地間ニ新航路ヲ開カントスルノ計畫アリ

在浦潮港日本貿易事務館

シモ右ノ本線トハ何等関係ヲ有スルモノニ非ス好シ会社カ該航路ヲ延長セントスルモ是亦政府トノ契約ニ基カサルヲ得サレハ会社限リニテ何等新計畫ノ實行ヲ為シ難シ之ニ最後ニ下村氏ノ提案ニ係ル件ニ至テハ今ノ露都本社ノ指令ニ俟タサルヘカラスシテ今ノ何等確實答ヲ與ヘ難シ併シ支那人一個ノ私見トシテハ敦賀浦朝間兵ケン貨客ノ交通今後非常ニ繁盛トナルヘシ云ヒトノ事ニ上ハ格別提携ノ必要ナカルヘシ云ヒトノ事ニ有之ニ付其方右所野辺一ト田義致置度高ハ同航路ノ関シ當地港務局長ノ言ヒ聞シ本年ヲ當地貿易斯科問ニ為

在浦潮港日本貿易事務館

三急行列車及至用ヒ〻ク付若シ日本ノ郵船カ之ニ連絡ヲ取ルニ至ラハ頗ル好都合ナラン云ヒ要スルニ小官一個ノ意見トシテハ從来露ト申進置度有之敦賀浦朝間航路ハ今後益〻有望ナレハ此際我政府ハ会航路ニ對シ相當ナル保護金ヲ支出シ將来東亜汽船会社ヲ壓倒シ日本海ケン航海上利權ノ全部ヲ我一手ニ掌握スルヲ最モ肝要ノ義ト存ス右乃至ラ及報告ス敬具

明治四十年一月廿日

在浦潮貿易事務官門上俊吉

外務大臣子爵林董殿

3-2058

0277

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

機密

明治四十年 一月二十四日起草
同 一月二十四日発

通商局長

代閲

機密送第 号

外務大臣

進信

敦賀浦港ヲ航路ニ変更ノ件並ニ浦潮敦賀間定期車航路事業再度募集ノ件

外務省

敦賀浦潮ヲ航路ニ変更ノ件並ニ浦潮敦賀間定期車航路事業再度募集ノ件

應募申件ニ付キ別紙ノ通リ今般左浦潟川上貿易ヲ格段ニ拡張スル為メ参考供覧ニ及ビ候間ヲ以テ急速ニ取調ノ上至急御通知ヲ乞フ

（商第一五号、機密第八九号信函外一件）

明治四十年一月二十四日受

明治四十年一月二十四日接受

別紙

3-2058

0278

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第312

明治四十年二月六日接受

秘第監第弐號

明治四十年二月五日

逓信省管船局長内田嘉吉

外務省通商局長石井菊次郎殿

敦賀浦潮岡航路ニ関スル在浦潮貿易事務官ノ稟申書及報告書本年一月廿四日付機密送第二号ヲ以テ回送ハ成レ慶閲覧濟ニ付別紙弐通及返戻候

逓信省

逓信省所蔵明治期工場写真

3-2058

0279

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp